

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 谷口 千枝

論 文 題 目

看護師のカウンセリングを加えた禁煙治療を受診した患者の、
禁煙の成功と継続に関連した心理・社会的要因の分析

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	玉腰 浩司
	名古屋大学教授	安藤 詳子
	名古屋大学教授	榊原 久孝

論文審査の結果の要旨

我が国では 2008 年より医療保険による禁煙治療が始まり、そこでは看護師によるカウンセリングが必須となっている。これまで看護師による禁煙指導、禁煙カウンセリングが禁煙成功に効果がみられることが報告されている。また、患者の高いセルフエフィカシーが禁煙成功に関与する要因であることも指摘されている。しかし、我が国のように禁煙治療中の 12 週間に看護師による 5 回の標準的な禁煙支援を受けた際の禁煙成功に関与する要因、特に看護師のカウンセリングによる患者のセルフエフィカシーの禁煙成功への関与について解析した研究は見られない。そこで本研究では、患者のセルフエフィカシーに注目して（禁煙の遂行可能性の認識として、0-100%で調査）、禁煙成功との関連について検討した。また、禁煙治療終了時に禁煙に成功していた者の治療終了 12 か月後の禁煙継続に関連する要因についても検討した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 禁煙治療患者 1,320 名の治療終了時の禁煙成功には、初回受診時のセルフエフィカシーの高さが関連していた。特にセルフエフィカシーが 60%以上ある場合に禁煙成功と有意な関連を示した。看護師のカウンセリングを受けた 2 回目受診時にセルフエフィカシーが 60%以上の患者においても、治療終了時の禁煙成功率は有意に高くなっていた。
2. 禁煙治療終了時に禁煙成功者 541 名の治療終了後 12 か月にわたる禁煙継続に関しては、治療終了時のセルフエフィカシーの高さとの関連は見られず、喫煙への渴望感の強さが禁煙継続を阻害する有意な関連要因であることが明らかになった。渴望感は弱い訴えであっても再喫煙の要因となった。
3. 本研究では、禁煙成功の要因としてセルフエフィカシーが、禁煙継続を阻害する要因として渴望感の強さが示された。そして、看護師による禁煙支援において、セルフエフィカシーを 60%以上に強化すること、また渴望感を最大限なくすようコントロールすることが、禁煙成功者の増加に繋がることが示唆された。また、渴望感を有する者には、禁煙治療終了後にも継続的な支援の必要性が考えられた。本研究は、禁煙支援においてセルフエフィカシーや渴望感をコントロールすることの重要性を明らかにし、禁煙治療での看護師の禁煙支援の在り方に有意義な知見を提供したと考えられる。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するために相応しい価値を有するものと評価した。